



神宮寺便り

平成26年10月
第14号

発行 普天満山 神宮寺
宜野湾市普天間1-27-11
098-892-3335

だいぶ涼しくなり、過ごしやすい気候になってきました。各地では運動会や様々な催し物が多く開催されていますね。

今月は、当寺でも「観音祭」と「ふてんまつり」と言う二つのお祭りがあります。観音祭は王朝時代から続く歴史ある荘厳なお祭りです。ふてんまつりは平成十九年に創建五百五十年を記念して始めたお祭りです。どちらも参加自由ですので、どうぞ、足をお運び下さい。

琉球国王と観音祭

良啓

神宮寺の起こり（縁起）は、今から遡る事五百五十五年前（一四五九年）。

時の国王第一尚氏王統尚泰久が首里から普天間を視察に来られた際に、ウガンジュ（拝所）であった洞穴に多数の参拝者があるのをご覧になり、整備拡大を臣下に申し付けました。

そこで、洞穴を御神体として、神宮寺と普天満宮が創建されました。

さらに、一六四四年、尚賢王が無病息災を祈る為に、当寺と普天満宮に臣下百名余を引き連れて、参詣されました。

以来、これが王家の公式行事となり近年まで続きました。琉球王府解体に伴い国王がいなくなっても当寺と普天満宮は残った為、神宮寺は旧暦九月九日の重陽の節句に観音祭を、普天満宮は旧暦九月十五日に例大祭をそれぞれ続けております。

現在の観音祭は、大曼荼羅法要並びに秘仏の観音菩薩像の年に一度の御開帳を挙行しております。特にこの観音菩薩像は故山田真山画伯の作となっており、氏の作品中唯一の仏像です。ご興味ある方は、軽食をご用意しておりますので、お気軽にご参列下さいませ。

弘法大師のことば

裕俊

たま たくま よ しょうしゃ うつわ な
玉は琢磨に縁って 照車の器と成り、

ひと せつき ま せんさい さい いた
人は切磋を待って 穿犀の才を致す。

三教指帰卷上・亀毛先生論（定七・四六）

「玉は磨く事によって輝きを増し、前後十二台の車を照らすほどに立派な宝玉となり、人はその才能を鍛える事によって、極めて堅い犀の革をも切り裂くほどに鋭敏なる俊才となる。」

切磋琢磨という四字熟語がありますが、今回の言葉は空海流の切磋琢磨といったところでしょうか。一見ありふれているように見えるものでも、すばらしい変貌を遂げる可能性を秘めていて、私たち人間もまた同じである、という私たちへの力強い励ましの言葉です。

＊10月の神宮寺＊

10月2日（木） 観音祭 11時30分～14時

10月12日（日） 第6回ふてんまつり 11時～20時

※10月の学ぶ会は、お休みとなります。

＊11月の神宮寺＊

11月6日（木） 学ぶ会 19時～

お問い合わせは 892-3335 神宮寺まで